

受付番号

20

承認番号

大歯医倫 第 110898

研究課題名

顎変形症患者の術後顎間固定時における摂取しやすい食事に関する検討

研究責任者

吉本 仁

申請者

吉本 仁

研究終了日

平成 30 年 3 月 31 日

所 属

口腔外科学第二講座

所 属

口腔外科学第二講座

職 名

講師

職 名

講師

申請の概要

食事は栄養学的な必要性に加えて、目で楽しむとも言われるように、生活の楽しみとなる情緒的な面も兼ね備えている。このため食事に対する不満やストレスがあると、食事摂取量が減少し栄養摂取量は不足しやすい。また食事の摂取量は身体症状と強い関連がみられるとの報告がある。

当院では現在、顎変形症手術後に顎間固定した患者の食事にはミキサー裏ごし液状食を提供しているが、必要エネルギー量を確保するためには食事の量が多くなり、全量摂取できていない患者が見受けられる。当院で2年前に調査したミキサー裏ごし液状食の平均摂取量は66.3%であった。

そこで、適切な栄養管理を行うためには、対象患者の食事に関する摂取量、評価、満足度、補食についての現状および問題点を把握する必要がある。特にエネルギー必要量の高い患者へは食事の全体量を増やさずに、摂取できるエネルギー量を増やす必要があると考える。本研究によって顎変形症手術後に顎間固定している入院患者の食事摂取状況を調査することで、顎間固定中でも摂取しやすい食事を検討し、食事内容を改善するとともに退院時栄養指導がより充実できるものと期待される。